

アサリ幼生の着底時における底質粒径選択性について

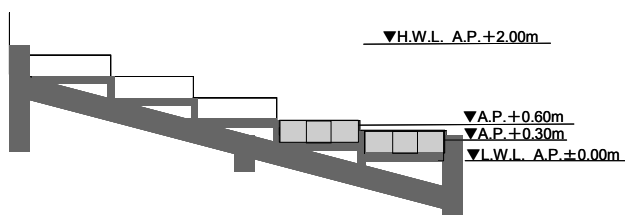
竹山 佳奈¹⁾, 上田 正樹¹⁾, 岩本 裕之¹⁾

Habitat selection at the Settlement of Larvae of the Clam *Ruditapes philippinarum*(A.Adams et Reeve, 1850)

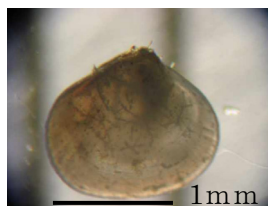
Kana Takeyama¹⁾, Masaki Ueda¹⁾ and Hiroyuki Iwamoto¹⁾

■ 要 旨 ■

国内の重要な水産資源であるアサリの資源量は近年減少傾向にある。そのためアサリの生息場所やアサリ幼生の着底機構の解明は重要な課題となっている。しかしながら、アサリ幼生の着底場所選択性については、室内実験での着底粒径選択性についての報告(柳橋 1991)があるだけで、ほとんど明らかとなっていない。そこで、実海域においてアサリ幼生の底質粒径選択性を明らかにするために、千葉県市川市の海域でアサリ幼生の着底実験をおこなった。底質材料として 0.106-4.75mm の単一粒径の珪砂を用いた。珪砂は粒径ごとに 5 ケースに分け、各ケース内に自然加入したアサリ幼生の着底量を計測した。その結果、アサリ初期稚貝(殻長 0.5mm前後)の着底量は、粒径 0.850-2mm(ケース4)でピークに達しており、粗砂には着底促進効果があることが明らかになった。しかしながら稚貝が成長するにしたがって、実験ケース間での稚貝生息量の差は小さくなっていった。この結果より、アサリ稚貝の成長に好適な粒径と幼生の着底時に好適な粒径は異なる可能性が示唆された。今後の課題として、アサリ幼生の着底およびその後の成長に適した底質環境を明らかにする必要がある。



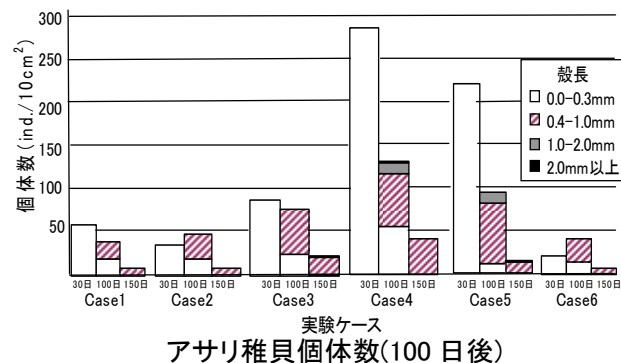
実験施設概要



アサリ稚貝

実験ケース

ケース	粒径(mm)	分類
1	D=0.106-0.250	細砂
2	D=0.250-0.425	中砂
3	D=0.425-0.850	中砂
4	D=0.850-2	粗砂
5	D=2-4.75	細砂
6	現地土	-



実験ケース
アサリ稚貝個体数(100日後)